



新宿山吹だよりは、保護者の皆さんにも読んでもらって下さい。

「奴隷になりたくなければ学べ、教養を身に付けよ」

校長 永浜 裕之

古代ギリシャでは、「奴隷になりたくなければ学べ、教養を身に付けよ」と言われていました。この言葉は、今から2,000年以上前の西洋における「教養」についての基本的な考え方です。

西洋文化の土台を築いた古代ギリシャでは、都市住民は、「自由民(正規市民)」と「奴隷」の2種類に分けられていました。自由民とは、一定額以上の税金を納めた成人男子を指します。税金を納める対価として参政権が与えられていました。アテネやスパルタといった都市国家、ポリスは、大きな都市でも4万人程度の人口で、そのうち自由民は1万人程度でした。

当時、王や皇帝のような専制的な君主はおらず、すべて自由民による投票によって政策を決定していました。一人一人の票が持つ意味は大きく、さぞかし、自分たちの手で国を動かしているという実感があったことでしょう。

それだけに彼らは、自分たちは自由人であることを自覚し、誇りを持っていました。ただし、その地位は生まれながらに保証されているものではなく、自由民にふさわしくない行動をとったり、破産したりすれば、いつでも奴隷身分になってしまう危険が待ち構えていました。自由民には求められることも多く、戦時には軍を構成する兵士となるため、自費で武具をそろえ、戦闘技術を身に付け、常に体を鍛えていなければなりません。

彼らが国を直接動かしているならば、政治と経済、法や刑罰に関する彼らの理解度は、そのポリスの国力に直結します。そのため、彼らにとって教育は必須であり、事実、幼いころから学校に通い、また、年長者と組んで全人教育を施されるなど、古代世界でも珍しいほど、教育に熱心な文化が出来上がっていました。

古代ギリシャでは、「教養は自由民なら身に付けておくべき」とされていたわけです。

古代ギリシャの哲学者プラトンは、「自由民たる者、体育と芸術は当然のように体得すべきもので、少年期には算数と幾何学、天文学といった数学系科目を学ぶべき」と述べています。「体育」は、戦時に自由民が兵士となるために必須で、今日の音楽の語源でもある「ムーシケー」も必須でした。

プラトンは、国家は理想的人間像である「哲人」によって運営されるのが最善と考えており、「あらゆる学問は『哲人』に至るための道へとつながっている」と考えていました。

プラトンが提唱した数学系科目は徐々に形を変え、ローマ時代の末期には、算術、幾何学、天文学に音楽を加えた数学系4学となり、さらに、文法、修辞学、論理学の言語系3学とともに、哲学の下に位置する「セプテム・アルテス・リベラーレス(自由七科)」として再編されます。

アルテスはアートの、リベラーレスはリバティの語源であり、今日の「リベラル・アーツ」の語は、ここから来ています。

「リベラル・アーツ」は、日本では教養と訳されることが多いのですが、本来の意味は、「自由になる手段」と訳するのが正解だと考えます。また、現在の日本では、「問いを立てる力」と訳す方もいます。

学びは私たちが自主的に取り組むべきものであり(だからこそリベラルで)、それこそが私たちが奴隷ではなく自由民としてくれる(だからこそリベラル)なものだったのです。

さて、教養とは、「哲学、思想、文学、歴史といった学問や読書から先人の知恵を学び、内面に照らして自らを高めていく姿勢」を指します。

生徒の皆さんには、是非、懸命に勉強し、本を読みながら、人生に思い、悩み、そして、理想とする人格に近づいてほしいと思います。

私は、ヨーロッパのエリート養成で必修とされてきた「哲学」と「歴史」に関する知見を得るため、「哲学書、歴史書」を読むことをお勧めしますが、「ちょっと」という人もいられるかもしれません。そこで、ぐっとハードルを下げ、まずは、「よい音楽を聴き、よい小説を読み、よい映画を観て」ほしいと思います。

学校で学ぶ様々な内容に加え、視野を広げることはとても大切だと思います。

**UAE（アラブ首長国連邦）派遣報告 高橋 正憲**

海外派遣研修として、10月20日（日）～26日（土）の7日間でUAE（アラブ首長国連邦）に行きました。生徒は、情報科2部の藤井彩寧さん、岡留鈴夏さん、篠原悠希さん、森村舜さんの4名が参加しました。

7日間の研修では、現地の高校訪問の他に、日本国大使館訪問や、アブラハム・ファミリーハウス、グランドモスク、太陽光発電施設、大型廃棄物処理発電施設等のUAEの施設を視察しました。現地の高校訪問では、ATS（応用技術学校）を訪問し、与えられた再生エネルギーやロボット技術、Webデザイン、化学、料理、絵画などの課題を4時間の制限時間内でクリアするというワークショップをUAEの高校生案内で見学しました。見学後は、お互いの国で学校ごとに文化紹介をし、新宿山吹高校は、羽子板とお手玉を英語でUAEの高校生に紹介しました。その後のランチバイキングでは、一緒に食事をとり日本とUAEの話をするなどし、生徒同士で交流を深めました。異文化交流という日本ではできない経験を通して、日本大使館の大使からお話が合った「寛容と共生」という言葉を受けとめ、考えや文化の違いの人たちと共生し、今後の生活の中で、自ら積極的に様々なことを体験し、自己成長へとつなげてほしいと思います。



砂漠体験

**遠足に行ってきました（定時制・通信制） 今井 陽一**

11月8日（金）晴天のもと、定時制は4つのコースに分かれて、各々が異なる体験を楽しみました。通信制は、東京ディズニーシーに行きました。参加した生徒たちは、各コースで貴重な時間を過ごし、さまざまな学びを得ることができました。

## ・東京ディズニーシー

生徒たちは自由行動を楽しみながら、アトラクションやショーを体験しました。園内では多くの生徒が仲間と一緒に笑顔で楽しんでいる姿が見られました。また、昼食時にはグループごとに食事を取りながら、友人との交流を深めていました。

## ・上野・浅草散策

上野公園の大噴水（集合）、浅草寺雷門、ソラマチ（解散）の3つのチェックポイントを回る中で、各自が事前に立てた計画に基づいて、上野の博物館や美術館など、自由な散策や買い物を楽しみました。

## ・浜離宮恩賜庭園・劇団四季

日本の伝統的な庭園に触れ、その後、劇団四季の「ゴースト&レディ」を観劇しました。生徒たちは感動的な景観や舞台に引き込まれるとともに歴史・芸術を身近に感じることができ、有意義な時間となりました。

## ・校内での映画鑑賞

選定された映画を鑑賞しました。実施後のアンケートでは映画を通して新たな視点や価値観を学んだと感じた生徒が多数でした。

**パソコン甲子園報告****中山 享司、押久保 誓志**

11月2、3日の二日間、福島県の会津大学で行われたパソコン甲子園プログラミング部門本選に、本校から2チームが出場しました。全国から506チーム参加した予選を突破しての参加となりました。

競技ではF33 答島綾香・通信制志村瑛美ペア、J21 杉本拓哉・J41 佐々木裕大ペアともに、日ごろの学習成果を存分に発揮しました。競技後は全国から集まった選手同士での交流会にも参加し、多くの刺激を受けて帰ってきました。

IT研究部では、今後もさらに精進を重ね、情報オリンピックなど他の大会でも好成績を修められるよう努力していきますので、応援よろしくをお願いします。

**産業教育フェア報告****中山 享司、太田 亘**

10月25日から27日まで、宇都宮市で行われた全国産業教育フェア栃木大会に情報科生徒6人参加し、作品展示部門と作品・研究発表部門の2部門で発表してきました。

## ・作品展示部門

展示ブースが非常に目立たない場所でしたが、その中で生徒たちがどのように展示発表するのかを自分で考え、決断し、行動することができました。

## ・作品・研究発表部門

東京都主導のメタバース企画「Virtual Event in Tokyo」に参加した生徒の活動について発表しました。念入りな準備や練習のおかげで発表は大成功し、満足のいく発表が行えました。

**定時制課程 学校行事予定**

12月9日（月）後期中間考査（1日目）～  
 13日（金）後期中間考査（5日目）  
 16日（月）履修説明会  
 17日（火）履修個別指導～18日（水）  
 19日（木）山吹祭準備～20日（金）  
 21日（土）山吹祭/学校説明会  
 25日（水）全校集会／卒業予定者連絡会  
 26日（木）冬季休業日（始）  
 27日（金）閉庁日  
 1月8日（水）授業開始

**通信制課程 学校行事予定**

12月7日（土）後期スクーリングー9  
 14日（土）後期スクーリングー10  
 19日（木）山吹祭準備～20日（金）  
 21日（土）山吹祭/学校説明会  
 26日（木）冬季休業日（始）  
 27日（金）閉庁日  
 1月11日（土）後期スクーリングー11